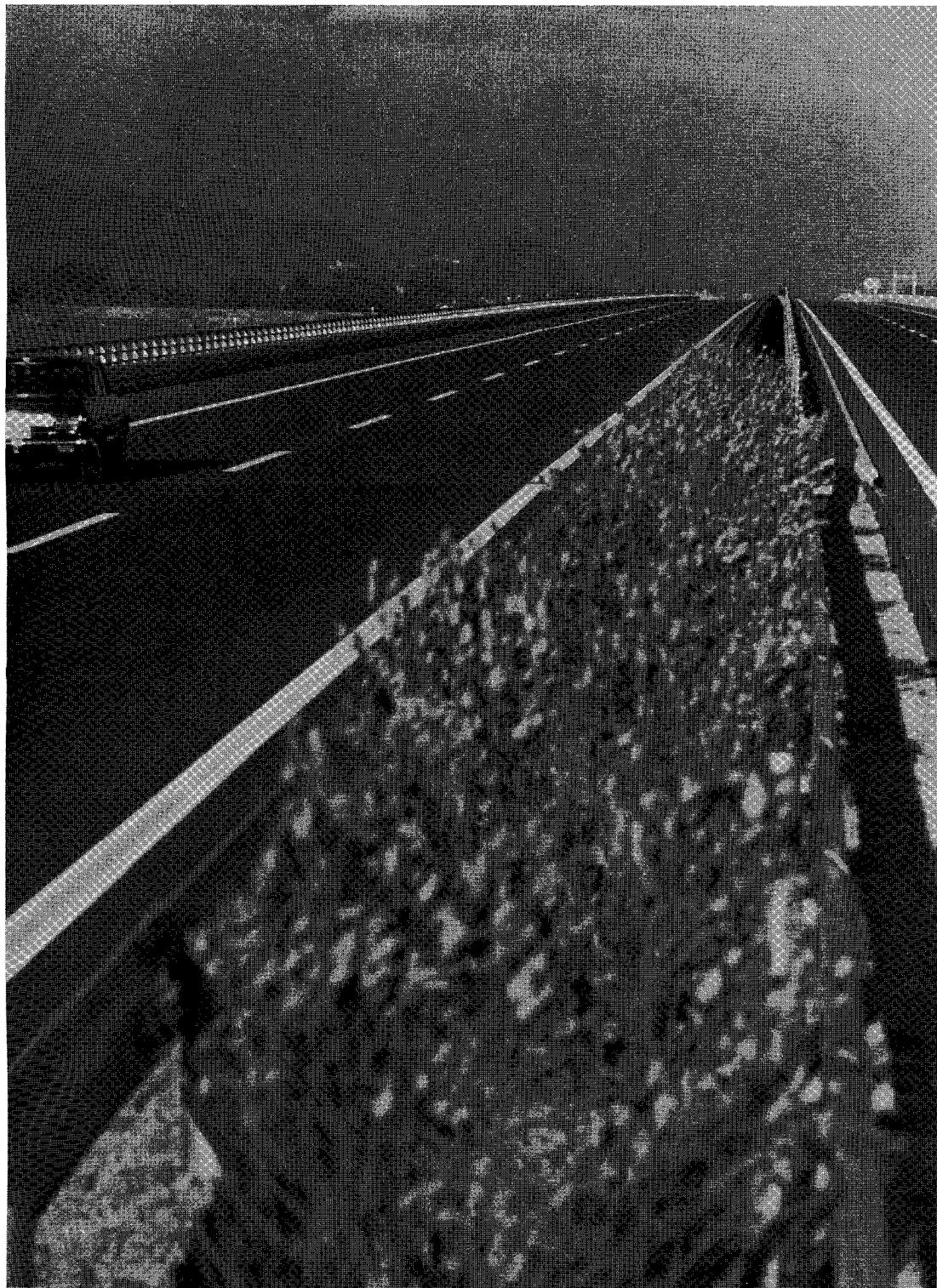
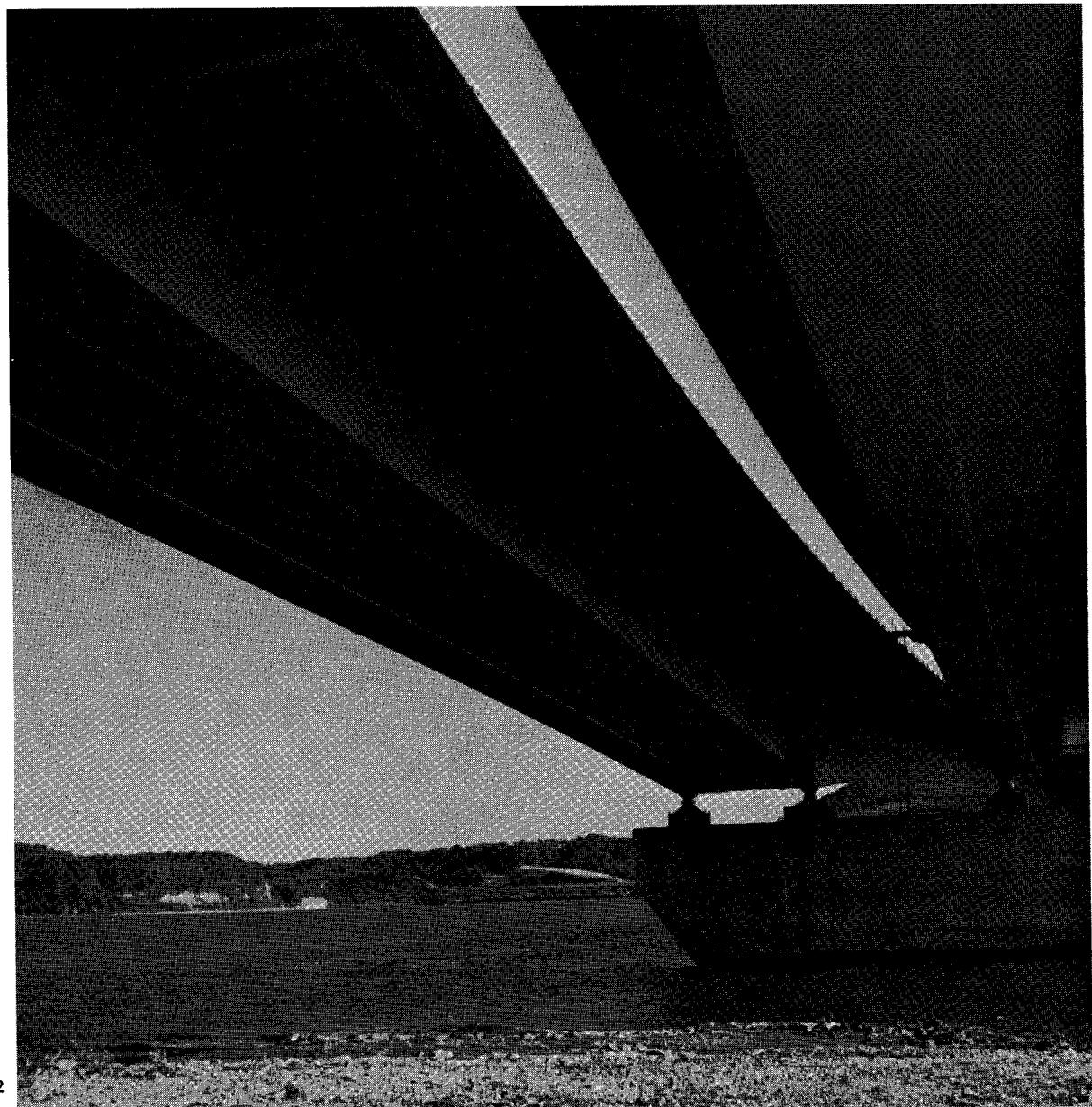
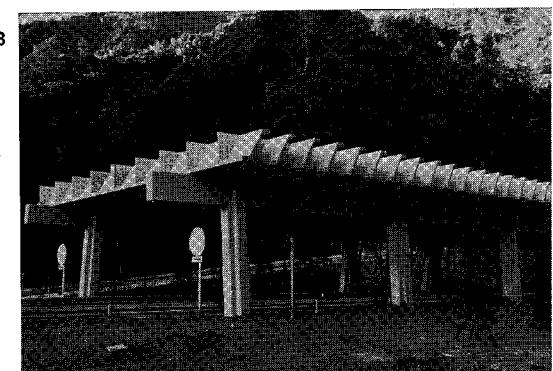

東名高速道路／第2次供用開始





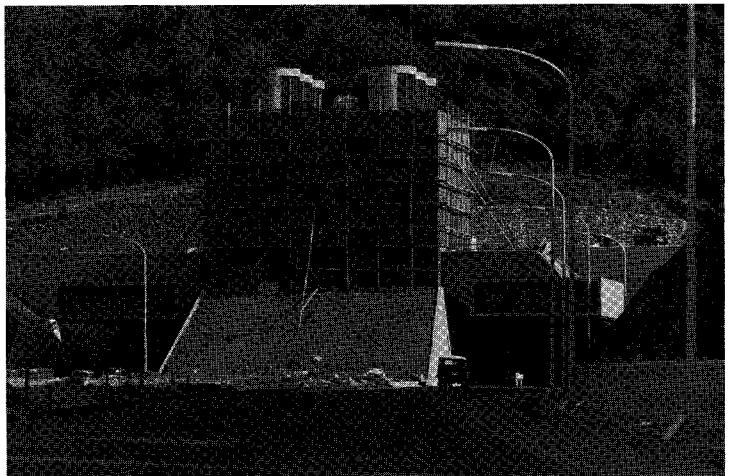
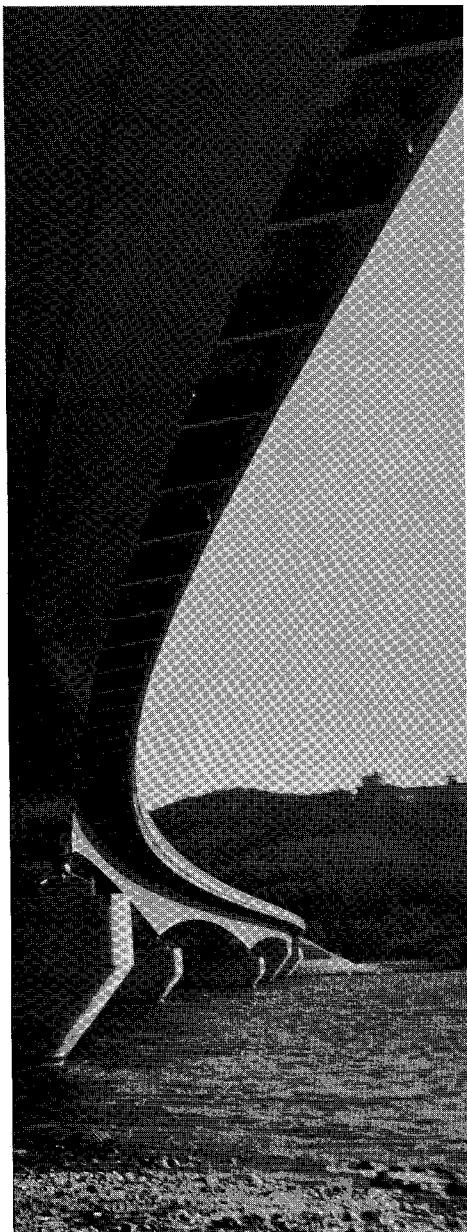
2



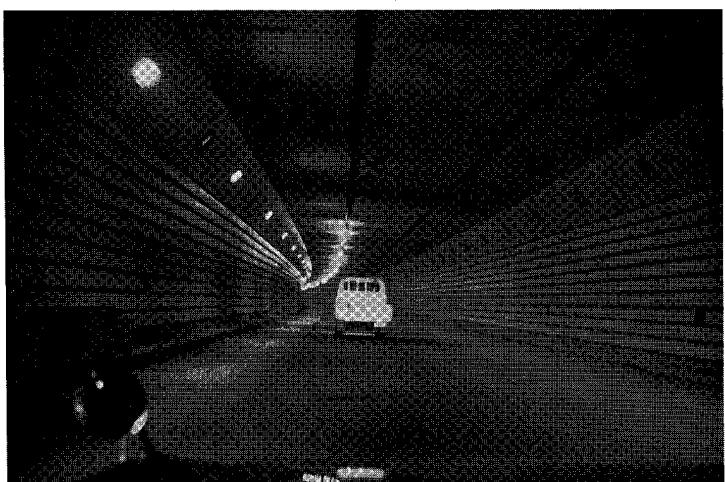
3

日本道路公団が昭和 38 年度以来建設を進めてきた東名高速道路は、昭和 43 年 4 月に第 1 次開通した 3 区間（東京～厚木、富士～静岡および岡崎～小牧間 計 128 km）に統いて、この 2 月 1 日、静岡～岡崎間 132 km が予定より早く開通の運びとなつた。

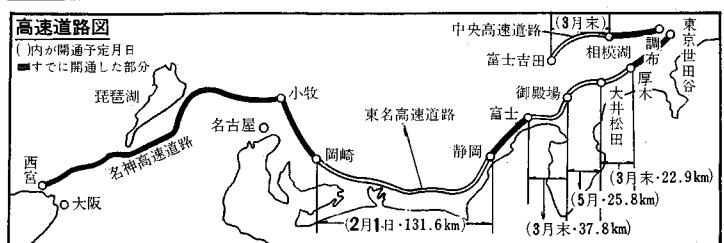
静岡～岡崎間は、大部分がなだらかな平地部を走り、国道 1 号にはほぼ平行しているが、途中には日本坂トネル、浜名湖橋など変化にも富んでいる。



4



5



この区間のインターチェンジは、焼津、吉田、菊川、袋井、浜松、三ヶ日、豊川の7カ所。サービスエリアは茶畑にかこまれた「牧之原」、浜名湖の景勝を望む「浜名湖」の2カ所。パーキングエリアは7カ所に設けられている。

今度の第2次供用開始により、東名高速は全線の約70%が開通することとなったが、追って残りの厚木～富士間も順次その進捗に応じて開通が予定されており、5月には待望の東西経済圏を直結する大動脈が誕生する予定である。

写真-1は、大井川橋付近寸景。写真-2は、完成した浜名湖橋を名古屋側から写したもの。写真-3は、日本坂トンネル西口のルーバー。写真-4は、日本坂トンネル東口全景。写真-5は、完成した日本坂トンネルの内部である。

写真提供・日本道路公团

北陸本線頸城 トンネル貫通



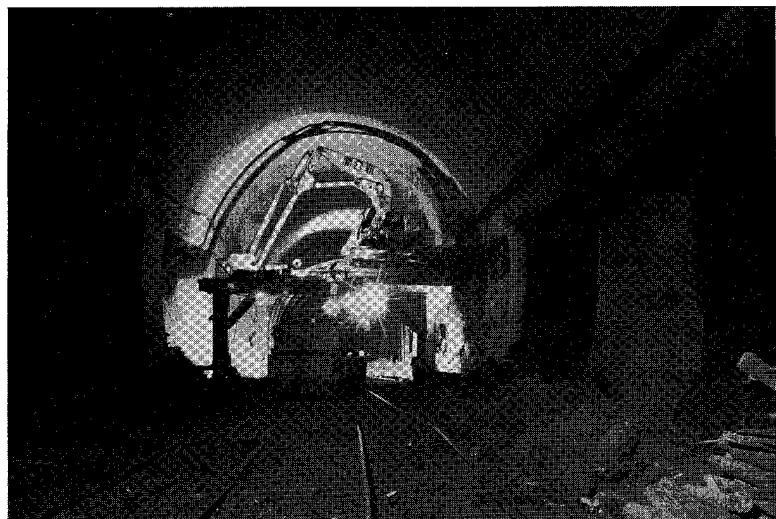
1



2

輸送力増強と近代化を目標に建設がすすめられている北陸本線の頸城トンネルが、多くの困難にうちかってこのほど貫通した。北陸本線最後の線増電化区間である糸魚川～直江津間は、全国有数の地すべり地帯でもあり、大部分が複線別線ルートをとっている。本区間のうち最大の難工事となった本トンネル工事は、全長 11.335 km を有し、5 工区に分割して施工された。1、2、3 工区では異常地圧などに遭遇したため、特殊工法を採用し、1月7日に貫通をみた。第3次計画の一環として施工された本工事は、現在最後の仕上げに入っている。詳細については、本文ニュース欄を参照されたい。

写真-1は貫通を歓ぶ国鉄石川建設局長（右）と国鉄松本岐阜工事局長。写真-2は 347.5 km 付近の完成区間。写真-3は中央底設導坑先進上部半断面逆巻工法現場。写真-4は直江津方坑口の 3 線断面である。



3



4

写真提供・日本国有鉄道

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

都市再開発の問題点と対策／井上 孝

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 13~18, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

第 29 回住宅都市計画世界会議において、都市を再開発するとともに、都市の更新を誘導する必要性が話題にのぼった。都市計画の一つの仕事は、このような都市の再開発、自然的な更新などにはっきりした目標を与えることであるが、これらの関連について本論文は述べている。筆者はむすびにおいて、都市再開発法の制定の必要性を述べるとともに、市街地の建設には積極的に建築物を建設するとともに、消極的ではあるが、規制により、規制にあてはまつたもののみ許可してゆくという方向を強くおしすすめることを求めている。

長径間高橋脚の新桂川鉄道橋梁の設計施工／西亀 達夫・宮下 和夫

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 19~27, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

中央本線相模湖～甲府間 70 km の複線化工事のため架設された本橋は、40 m 級の高橋脚がたちならぶ比較的珍らしい橋梁である。本文は、上部構造は 3 径間連続上部トラス (70+130+70 m) と支間 40 m の箱形合成桁 6 連、下部構造は、高さ最高 41 m の矩形断面鉄骨鉄筋コンクリート橋脚 8 基からなっている新桂川橋の建設誌である。内容は、計画・設計の概要、施工の概要の 2 編からなっており、図面を多く用いて詳しく述べている。

工業教育の目標についての研究／エーリック ウォーカー・ベンジェミン ニード

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 28~32, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

1966 年 9 月、アメリカ合衆国工業教育学会の Journal of Engineering Education 誌に連載された論説 “An Interpretation by the Chairman, ASEE Goals Committee—THE GOALS STUDY” を抄訳したものが本論文である。土木学会大学土木教育委員会が中心となって訳出した本論文は、1920 年代から今日に至るまでのアメリカにおける工業教育のあり方に対する考え方の変遷を伝えて非常に興味深いものがある。

地図および空中写真的防災目的への適用／安芸元清

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 33~39, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

従来、本分野においては地図は災害区域、被害状況の図示や復興計画の立案などに、空中写真是被害状況の迅速な把握に利用されるにとどまった感があったが、諸々の条件が整ってきた今時点においては、その進展が待たれるところにきている。本文では災害特性の調査、防災計画などに地図および空中写真が有効であるという観点から鶴見川、六甲山の例をひいてその方法を述べている。ただし、河川洪水、山地崩壊のみ今回は扱かったとするも、今後の展開が多方面で行なわれるであろうことを予測している。

土砂流送における傾斜管の摩擦抵抗／小川 元・小室 正人

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 40~44, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

傾斜管の場合の土砂水流送の摩擦抵抗を実験により検討し、あわせ一般的な考察を付加したのが本論文である。傾斜管の場合摩擦抵抗が減ることは実験からも認められているが、管路の一部に傾斜管を設ければ全体として摩擦抵抗が減少し、輸送土量を増加できるかどうかが本実験の目的である。その結果、一定水平距離に対して、短区間で上昇して長区間で下るようにすれば効果が期待できるとしている。

座談会・土木の将来のあり方と土木学会

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 52~57, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

本文は土木界の将来の発展のために土木学会は何をなすべきか、という大学土木教育委員会の問題提起に応えて、理事会が 2 回にわたって各方面の有識者を招いて座談会形式でご意見を伺ったものを要約したものである。内容としては、技術者と教育問題、研究者と研究テーマ、現状と土木の将来の発展分野、土木学会がなすべきこと、付記、からなっている。

土木技術者のための振動便覧

重版

目 次

基礎編

第1章 振動理論 1.1 自由度系の振動 1.2 多自由度系の振動 1.3 非線型振動 1.4 自励振動 1.5 不規則振動

第2章 地盤の振動 2.1 地盤を伝わる波動 2.2 弾性波の反射・屈折 2.3 境界を伝わる波動 2.4 地層の共振 2.5 上載荷重による地盤の振動 2.6 地盤のソイルプリズムとしての取り扱い 2.7 地盤のk値による取り扱い

第3章 構造物の振動 3.1 棒の縦振動 3.2 はりの振動 3.3 ト拉斯の振動 3.4 連続ばかり、ラーメンの振動 3.5 つり橋の振動 3.6 アーチの振動 3.7 膜・板の振動 3.8 Rayleigh-Ritzの方法

第4章 流体を含む系の振動 4.1 自由表面の振動 4.2 管水路の振動 4.3 圧縮性流体 4.4 平板に沿うまたは管中の振動流 4.5 静水に接する物体の振動 4.6 流水中の物体の振動

第5章 振動測定および各種解析法 5.1 基本的事項 5.2 測定および試験計器 5.3 測定結果の解析 5.4 測定・解析の自動化

第6章 土と材料の動的性質 6.1 土の動的性質 6.2 岩石の動的性質 6.3 歴青材料の動的性質 6.4 コンクリートの動的性質 6.5 鋼の動的性質

応用編

第7章 地震による振動 7.1 地震学概論 7.2 地震津波 7.3 地震時の土圧 7.4 地震時の水圧 7.5 震度法と設計震度 7.6 静的耐震設計 7.7 動的耐震設計 7.8 耐震設計施工上の注意

第8章 風による振動 8.1 風の特性 8.2 風害 8.3 物体に作用する風力 8.4 風による構造物の振動 8.5 土木構造物の耐風設計 8.6 風洞実験

第9章 水による振動 9.1 静水の慣性抵抗圧 9.2 管水路および開水路における振動 9.3 流水による水理構造物・水力機械の励振 9.4 キャビテーション 9.5 波の特性 9.6 セイシューおよび副振動 9.7 波による浮体の運動 9.8 波による構造物の振動

第10章 車による振動 10.1 車両振動の特性 10.2 鉄道線路の振動 10.3 道路の振動 10.4 橋梁の振動 10.5 地下埋設物の振動 10.6 走行面の整正限度

第11章 機械による振動 11.1 機械振動の特性 11.2 機械基礎の振動 11.3 防振法 11.4 流体機械の振動 11.5 建設機械の振動

第12章 衝撃的現象 12.1 なだれ 12.2 落石 12.3 落下水 12.4 発破 12.5 くい打ち 12.6 衝突

第13章 振動の利用 13.1 地質調査 13.2 振動による構造物調査 13.3 超音波の利用 13.4 常時微動の利用 13.5 振動を利用した工事用機械

付録 A 1 耐震規定 A 2 耐風設計規定 A 3 構造物の固有振動数 A 4 構造物の対数減衰率 A 5 振動に対するじょ限度

A5判 436ページ上製

■定価 2400円□

□会員特価 2000円■

<送料は110円です>

土木学会土木振動学便覧編集小委員会

委員長	大地 羊三	池田 康平
委員	伊藤 学 石原 研而 表 俊一郎 小坪 清真 小林 芳正 合田 良実 佐野 豪一 白石 成人 堤 一 伯野 元彦 日野 幹雄 福地 合一 宮崎 昭二 山村 和也	大久保忠良 久保慶三郎 小寺 重郎 後藤 尚男 佐藤 吉彦 桜井 彰雄 武川恵之助 中川 義徳 林 聰 平島 政治 堀井健一郎 山田 善一 芳村 仁

△申込方法△

代金に送料を添え前金でお申込み下さい。まとまつたお申込みは送料が安くなりますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

取引銀行□第一銀行八重洲口
支店・四谷支店/住友銀行麹町支店/三菱銀行四谷支店/
富士銀行四谷支店



土木学会

土木技術者数の将来推計／田原 隆

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 45~51, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

今日の土木界において、資材・労務者の不足とともに技術者の不足は大きな問題を提示している。本論文は、後者すなわち技術者不足に着目して、以下の諸点について研究した結果を報告している。すなわち、今日の技術者数に関する情報不足を指摘し、各種の資料から推計するとともに、結果として今までとった以上の文教対策を維持しなければ、今後技術者の供給ができないことを述べている。

設計業務の進め方に関する考察／鳥内修三

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 58~63, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

建設コンサルタント協会大阪支部では、委員会を設けて“建設コンサルタント業務能率化のための考え方（第1次案）”および“建設コンサルタント業務における照査・検算基準（第1次案）”を発表、設計業務の向上のために努力している。現在、刊行物になっているものは、調査計画の指針・設計の理論・施工法・製図法・工事仕様書、積算見積指針などであるが、設計業務の進め方に関するものがない。本論文は、筆者の経験をとおして設計業務の進め方の基本的な考え方を述べたものである。

河床変動と集水区域内の荒廃地状況との関係／三輪 潔

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 64~67, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

本論文は、集水区域内の荒廃地の面積、斜面勾配、標高等などをパラメーターとして河床変動との相関性を検討し、河床変動機構の一端を明らかにしようと試みている。結果として、比流量で 1.0 未満の河川流量における河床変動は集水区域内の荒廃地状況に関係なく生ずるが、比流量では 1.0 以上になると、荒廃地の面積が河床変動を左右する最も大きな要素となっていることが、明らかになったとしている。

寒冷地土木の話題—冬季施工と労働力を中心として—／川 名 信

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 68~71, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

北海道庁に勤務する筆者の寒冷地における施工の経験と、海外視察の成果をあわせて、本論文としている。内容は、寒冷期の休業、施工、外国の事情、働く人に分れているが、多くの困難はつきまとうものの、そこに住む人の生活向上のために冬季工事をやらねばならないことを強調している。

山岳道路のかかえている諸問題—飛驒川事故をかえりみて—／増岡康治

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 72~74, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

多くの尊い人命をうばった飛驒川事故は、道路建設と維持に直接当たる土木技術者に大きな影響を与えた。本論文は当面の責任者でもある筆者が、かかえている大きな問題と展開を、多くの写真を使って解り易く述べたユニークな論文である。再びこの種の事故を発生させないために、どのように対策をなすべきかを述べている。

第 11 回海岸工学国際会議報告／本間 仁

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 75~77, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

1966 年第 10 回海岸工学国際会議が東京で開催されたことはまだ記憶に新しい。本文は東京に次いで開催された第 11 回大会の報告として、東京大会との対比において記してある。提出論文の課題は波浪関係が主力であると述べるとともに、ロンドンを中心とする開催地周辺の風物が楽しく述べられている。

土木構造工学研究の現況／土木学会橋梁構造委員会

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 79~83, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

1968 年初頭、アメリカ合衆国土木学会構造部会研究調査委員会から、わが国における構造工学研究現況調査の依頼があったのを機会に、標記委員会が中心となって全国の関連諸機関の協力を得て調査した結果を中心まとめたのが本文である。本文には、以上の調査結果のほかに、標記委員会の活躍状況、国内における本分野の研究活動、IABSE などのことがあわせ収録されている。

建設技術者のための測定法

新刊

土木学会誌に連載された講座「測定」を
読者の要望にこたえて全面的に改筆・加
筆した決定版です。

技術革新のいちじるしい現代では、あら
ゆる現象を定量的にとらえて技術を推進
してゆかなければなりません。

本書は建設工事に従事するすべての技術
者に必須な知識である「測定」に関する
始めてのユニークな単行本です。

目 次

第1章	総説
第2章	測定器械 2.1 流体に関する測定器 2.2 固体に対する測定器 2.3 電気変換測定装置 2.4 電波・レーザー光および音波利用測定機 2.5 記録装置
第3章	測定値の処理法 3.1 データのまとめ 3.2 母集団と標本 3.3 確率分布 3.4 標本分 布 3.5 推定 3.6 檢定 3.7 実験式の あてはめ 3.8 周期的変動をする測定値の処 理 3.9 現象解析上の統計処理
第4章	気象に関する測定 4.1 気圧に関する測定 4.2 気温に関する測定 4.3 湿度に関する 測定 4.4 蒸発に関する測定 4.5 霧に關 する測定 4.6 雨に関する測定 4.7 雪に 関する測定 4.8 風に関する測定
第5章	地盤に関する測定 5.1 土質に関する測定 5.2 岩盤に関する測定 5.3 地すべり、砂 防に関する測定
第6章	水に関する測定 6.1 流水に関する測定 6.2 河川に関する測定 6.3 海岸に関する測定
第7章	構造物に関する測定 7.1 応力および振動の 測定 7.2 ダムに関する測定 7.3 橋梁(上 部工)に関する測定 7.4 橋梁(下部工)に 関する測定 7.5 トンネルに関する測定
第8章	交通運輸に関する測定 8.1 道路に関する測 定 8.2 鉄道に関する測定 8.3 空港に 関する測定
第9章	衛生工学に関する測定 9.1 上水、工業用水 に関する測定 9.2 下水道に関する測定 9.3 水質汚濁に関する測定 9.4 大気汚染に する測定

A5判 422ページ上製

■定価 2000円□

□会員特価 1800円■

<送料は 110円です>

土木学会測定法編集小委員会

委員長 高田 孝信

委員 伊吹山四郎 奥田 穂

久保慶三郎 合田 良実

佐藤 裕 高橋 彦治

谷口 敏雄 服部昌太郎

樋口 芳朗

委員兼 柏谷 衛 土屋 昭彦

幹事 中村 英夫 林 正夫

山本 稔 渡辺 隆

△申込方法△

代金に送料を添え前金でお
申込み下さい。まとまった
お申込みは送料が安くなり
ますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

取引銀行□第一銀行八重洲口
支店・四谷支店 / 住友銀行麹
町支店 / 三菱銀行四谷支店 /
富士銀行四谷支店

 土木学会

空港の容量について／土木学会文献調査委員会

土木学会誌第 54 卷第 2 号, pp. 84~89, 昭和 44 年 2 月 (February 1969)

空港の容量は、着陸区域、ターミナル区域、管制の方法・技術の 3 つの要素からなっている。しかし、実際の計画にあっては、着陸区域+管制の方法・技術をもって狭義の空港の容量としている。本論文は後者の意味における空港の容量について、容量の求め方、予測、経済的比較、エプロンのバース数などについて解説を試みている。

日本土木史 ——大正元年～昭和 15 年—

体 裁：B5 判 8 ポ横一段組み 本文 1770 ページ 図 410 葉 表 500 点

写真 150 枚余 上製箱入脊革豪華製本 定価 12,000 円 (税 300 円)

内 容：第 1 章 河川・運河・砂防・治山／第 2 章 港湾・漁港・航路標識／第 3 章 農業土木／第 4 章 都市計画・地方計画／第 5 章 道路／第 6 章 軍事土木／第 7 章 上水道・下水道および工業用水道／第 8 章 土木行政／第 9 章 建設機械／第 10 章 トンネル／第 11 章 発電水力およびダム／第 12 章 鉄道／第 13 章 水理学／第 14 章 応用力学／第 15 章 土性および土質力学／第 16 章 測量／第 17 章 土木材料／第 18 章 コンクリート／第 19 章 土木教育史／第 20 章 学・協会史／付・日本土木史年表 ● 昭和 16 年～昭和 40 年までの日本土木史は現在編集中 ●

本州四国連絡橋技術調査報告書

付属資料 1. 耐風設計指針（1967）および同解説特別頒布

本学会が建設省および日本鉄道建設公団より委託をうけて調査した結果を「本州四国連絡橋技術調査報告書」(4 冊一組)として頒布いたしましたが、そのうち、付属資料 1 の下記指針は、学術的、技術的にもきわめて貴重なものであり会員からの要望もありますので委託者のご厚意により限定部数にかぎり増刷の許可を得、下記により頒布しますので希望者は至急お申込み下さい。

記

目 次：第 1 章 総 節／第 2 章 風の特性／第 3 章 風速の変動／第 4 章 設計風速／第 5 章 静的設計／第 7 章 動的解析／第 7 章 構造物に対する風洞実験／第 8 章 架設中その他の問題点

A4 判 120 ページ、活版印刷

頒 價：1,200 円 (送料 100 円)

頒価部数：100 部

申込要領：前金で土木学会刊行物頒布係へお申込み下さい。

付属資料 2. 耐震設計指針（1967）同解説および耐震設計詳説特別頒布

標記報告書は、増刷の許可を得て“応答を考慮した長大橋の耐震設計に関する講習会（7月 16 日開催）”のテキストとして頒布いたしましたが、まだ残部がありますのでご希望の方は至急申込み下さい。

目 次：第 1 編 本州四国連絡橋耐震設計指針（1967）・同解説／第 2 編 耐震設計詳説 第 1 章 諸論／第 2 章 設計に用いる地震動／第 3 章 地震時の土圧および水圧／第 4 章 下部構造／第 5 章 吊橋／第 6 章 カンチレバー橋／第 7 章 アーチ橋

頒 價：1,500 円 (送料 100 円)

頒価部数：150 部

申込要領：前金で土木学会刊行物係へお申込み下さい。

③ 土木計画学シンポジウム B5判・132頁 700円

最新刊

第3回土木計画学シンポジウムについて（鈴木雅次） 第2回土木計画学シンポジウムにおける総括討論のまとめ（米谷栄二） 土木計画の考え方——第1回および第2回土木計画学シンポジウムの整理と検討——（委員会幹事会） 道路工学・交通工学の周辺における2, 3の事例（枝村俊郎） 景観計画における計量化（鈴木忠義・村田隆裕） 道路計画における計量化（山根孟） 鉄道貨物輸送における設備計画と計量化（菊地宏） 全国幹線交通モデルの開発に当って——計量化の方法と問題点（伊藤博） 港湾計画における計量的手法例と問題点（小池力） 構造物の設計における安全率の選択（島田静雄） 上下水道計画における計量化とその問題点（末石富太郎）

—<既刊>

土木計画学講習会テキスト 1 B5判・122頁 800円

土木計画問題のシステム化——ネットワークシステムを例にとって（吉川和広） 調査方法および資料整理（高橋裕） 道路計画の基礎資料（山根孟） 将来予測的一般論（加藤晃） 港湾の整備計画（高田陸朗） 都市用水需要の将来予測（首藤和正）

1 土木計画学シンポジウム B5判・134頁 700円

■委員長挨拶（鈴木雅次）

■総論 土木計画と土木技術（八十島義之助） 土木計画と公共投資（加納治郎） 土木計画と土木技術へのコメント（米谷栄二）

■土木計画手法に関する土木計画とオペレーションズリサーチ（吉川和広） 計画基礎数理（佐佐木綱） 土木計画手法への反省（五十嵐日出夫） 施工管理計画（佐用泰司） 土木計画手法に関する（渡辺新三）

■総合計画に関する土木計画（川北米良） 土木計画と都市計画（秀島敏彦） 地域に関する計画における土木計画（井上孝）

■総合開発と社会開発に関する土木計画のあり方と基礎理念—水資源計画部門（西川喬） 防災計画（石原安雄） 環境衛生計画—公害を中心として（山本剛夫） 観光計画論から土木計画論へ（鈴木忠義） 産業開発と社会開発に関する（高橋裕）

■交通計画に関する地域計画と交通（内田一郎） 起終点施設計画と土木計画（長尾義三） 大都市問題と交通計画（毛利正光） 都市鉄道計画の基礎理念（多谷虎男） 交通施設投資の計画体系について（天野光三） 交通計画に関する（小川博三）

2 土木計画学シンポジウム B5判・120頁 700円

■第1回土木計画学シンポジウムにおける土木計画のあり方と基礎理念に関するまとめ（米谷栄二）

■水資源計画 水需要量の予測と計画決定の合目的性（佐々木和彦） 河川の総合的开发利用計画（北野章）

■交通計画 コンゴ共和国の鉱山品輸出増強計画（立花文勝） 道路計画（星野哲三） 港湾における計画目標の設定と評価の基準（長尾義三） 都市交通計画（新谷洋二） 地域と交通（加藤晃）

■都市計画・地域計画 理論都市・地域計画への試み（毛利正光） 地域計画に関する一考察（大塚友則） 都市計画・地域計画（渡部与四郎・ほか）

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828



土木学会

土木学会関東支部刊行物

シールド工法と沈理工法の施工上の問題点

昭和43年11月発行 B5判 267ページ 定価 2000円 〒 100円

最近のわが国のシールド工法の傾向とソ連のシールド工法（當団：西嶋国造） 機械化シールド施工上の問題点一川崎市導水路工事（川崎市：坂根稟一郎） 機械化シールド施工上の問題点一東電地中線管路工事（東電：吉川新吉・近藤秀和・和田新一） 特殊条件下の下水道シールド工事（都下水道局：松岡正次） 地下鉄9号線外神田付近砂地盤中のシールド工法（當団：塙田 章） 東海道線、総武線線増工事におけるシールド工法（東一工：山口良雄・宇野浩彰） 地下鉄1号線二本榎におけるシールド駅の築造（都交通局：駒田義雄） 東京湾横断道路沈理トンネルの計画（関東地建：布施洋一） 京葉線多摩川河底沈理函トンネル工事（鉄道公団：大平拓也）

新しい橋梁施工技術

昭和43年11月発行 B5判 150ページ 定価 1200円 〒 100円

平行線ケーブル工法による吊橋架設（八幡製鉄：安井三雄） ピルツ工法による高架橋の施工（鹿島建設：吉田正吾） パラレルワイヤーストランドによる吊橋架設（富士製鉄：田辺末信・東田信安、横河工事：日戸順三郎、東京製鋼：根来広平） 鋼床版橋の現場溶接施工（首都高速：中村正平）

建設工事合理化のための近代的管理手法の活用

昭和42年11月発行 B5判 132ページ 定価 1000円 〒 70円

新しい工程管理の理念とネットワーク手法の基礎理論（大成建設：加藤昭吉） PERT COST一日程と原価の組織的管理法（藤田組：野木貞夫） MAN POWER SCHEDULING—配員計画について（鹿島建設：平田義則） ケーススタディー（佐藤工業：宮田弘之介） ネットワーク手法の今後の展望（三菱重工業：鴨打幹人）

構造物の基礎

昭和42年10月発行 B5判 232ページ 定価 1500円 〒 100円

鉄道橋基礎の設計（構設：田村浩一） 道路橋基礎設計の考え方（都建設局：鈴木俊男） 基礎地盤の調査（東海大：宇都一馬） 鋼杭基礎の設計施工上の問題点（日本鋼管：吉村元宏） 既製コンクリートぐい設計施工上の問題点（首都高速：岡田哲夫） 場所打ちぐいの問題点（国鉄建設局：片瀬貴文） 直接基礎の安定（土研：駒田敬一） ケーンソング基礎の問題点（都建設局：青木重雄） 仮設物の設計施工上の問題点（首都高速：玉野治光） 河川工作物—橋梁—設置基準（河川局：繩田照美） 国鉄新幹線の軟弱地盤における構造物基礎（構設：池田俊雄） 長大吊橋の基礎（土研：吉田 巖）

舗装

昭和41年11月発行 B5判 95ページ 定価 700円 〒 50円

最近における舗装の諸問題について—AASHO道路試験の考察（道路局：高橋国一郎） アスファルト舗装要綱の問題点について—とくに構造設計について（中大：竹下春見） アスファルト舗装の品質管理について（土研：松野三朗） アスファルト舗装施工上の問題点（日本舗道：中島彬博） 簡易舗装について（道路局：田中淳七郎）

■代金に送料を加えて前金でお申込み下さい ■

定評ある
土木学会
のトンネル工学書

トンネル
標準示方書

A5・36頁
100円
円50円

トンネル
標準示方書
解説

A5・130頁 600円
会員特価 500円
円70円

閥門トン
ネル工事誌

B5・692頁
2000円
会員特価 1500円
円200円

お申込みは前金で送料
を添えて下さい。

郵便番号 160
東京都新宿区四谷1丁目

土木学会

電話 351-4131(直)
振替 東京 16828

トンネル工学シリーズ 1

第1回トンネル工学シンポジウム

B5判・106ページ

400円・会員特価

300円(円50円)

トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について / 長大トンネルの地質 / トンネル工事における災害の実情について / 高熱トンネルの施工について / 名古屋市高速度鉄道のシールド工法について / わが国トンネル施工のすう勢と問題点について

トンネル工学シリーズ 2

最近のトンネル工学—工事の実例と話題—

<第2回トンネル工学シンポジウム>

B5判・136ページ

500円・会員特価

400円(円50円)

トンネル標準示方書制定について / 青函トンネルについて / 国鉄新丹那トンネルについて / 羽田海底トンネルについて / 富士川用水導水トンネル工事について / AN-FO爆剤とその発破法

トンネル工学シリーズ 3

第3回トンネル工学シンポジウム

B5判・146ページ

1000円・会員特価

800円(円70円)

トンネル土圧 / トンネル土圧の測定方法と現況 / トンネル用鋼アーチ支保工の強度について / トンネル掘削における余掘りの実態について / セグメントの設計について / 栗子トンネルの工事計画と施工実績について / 国鉄親不知トンネルの施工実績について / 青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネル掘削機の掘削試験について / 大阪地下鉄線複線型と単線型シールドの実施例と問題点 / シールド工法による駅部の施工計画について / わが国における中小口径シールド工事の現況について

トンネル工学シリーズ 4

わが国シールド工法の実施例・第1集

B5判・338ページ

2200円・会員特価

1800円(円110円)

第I部 工事概要 / 第II部 設計および実績 / 第III部 セグメント / 第IV部 シールドおよび付属機械 / 第V部 工事用機械その他 / 第VI部 主な図表類 / 付録

鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信
・地下道その他に分類 158件を収録

トンネル工学シリーズ 5

第4回トンネル工学シンポジウム<最新刊>

B5判・268ページ

1800円・会員特価

1600円(円80円)

ソ連の地下鉄 / アメリカのトンネル工事を視察して / アメリカにおける山岳トンネル工法 / アメリカにおけるトンネル掘さく機 / アメリカにおける都市トンネル / アメリカにおけるコンサルタント業務 / アメリカにおける請負工事の諸事情について / アメリカのトンネル施工に関する新技術 / 欧州のトンネル工事を視察して / 欧州におけるトンネル請負工事の諸事情について / 欧州における山岳トンネル工法 / 欧州におけるトンネル掘進機について / 欧州のシールド工事 / 欧州における地下鉄工事 / 欧州における沈埋工事